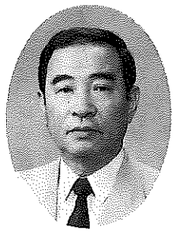
桜ケ丘だより

第24号
発行所
関高等学校同窓会
岐阜県関市桜ケ丘2丁目
郵便番号501-32
電　話(0575)22－5688
FAX(0575)22－5688
印刷／ムトウプリント
〈校　訓〉
錬至　進
磨誠　取

ご挨拶



同窓会長　広瀬恒行

私こと、この五月に開催された平成四年度総会で、会長に推挙されました。諸先輩のおられる中、高校六回の若輩で浅学非才の小生に名誉ある関高校同窓会の運営がうまくできるかと危惧しておりますが、幸いにも有能な副会長の皆様はじめ幹事の方々が多数いらっしゃいますので、助けを借りながらつとめたいと思います。

さて、昨年は本校創立七十周年という大きな節目に、立派な研修会館『彩雲館』の完成を見ましたが、これもひとえに炭竈実行委員長・渡辺前会長をはじめ役員・同窓生各位の母校を思う強い心の結束の賜物であると心から感謝申し上げます。

今年の卒業生が同窓会に入会されて、実に約一六〇〇〇名という大きな同窓会になったわけですが、これをまとめていくには、各地にある支部の結束と活動がなければとても出来ることではありません。現在、東京・近畿・名古屋・岐阜・美濃加茂に支部があり、ますが、今年度は近畿支部が総会を開催される予定です。また、岐阜県職員としてお勤めの方々による『安桜会』という同窓生の会もあります。その他いろいろの会があると思いますが、本当に心強く思っております。

渡辺前会長をはじめ、代々の会長のご功績を汚さぬよう、活動が停滞することのないよう、役員の方々と手を携えて関高校同窓会の発展のために頑張りますので、会員の皆様方の絶大なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

また、今年度は隔年の総会の年で、通常会費をお納めいただく年度になっております。前回は七十周年のご寄付をお願いしました関係で会費の納入をお願いし致しませんでしたので、今年度は是非ご納入をお願いしたいと思います。この〝桜ケ丘だより〟の発行と全会員への配布、在校後輩の部活動の援助や支部活動への助成、学校施設の充実等のためにもご理解をいただきたく、宜しくお願い申し上げます。

平成4年度 同窓会総会

平成四年度の総会は、新緑も眩しい五月十七日(日)、真新しい『彩雲館』での開催で、出席者八十余名は、初使用ということもあって、清々しい気持ちで参加されました。

安田富士子副会長の開会のことばに始まり、渡辺宣章会長の挨拶の表情は成し終えた安堵か、何処か気が弾んでいるように思われました。通常会費の徴収・会員名簿作り・七十周年記念事業・彩雲館への渡り廊下の完成など回想を聞くときに、そのご努力に感謝いたします。

併せて、炭竈実行委員長をはじめとする先輩諸氏の意気に燃えたご尽力は、七十年の節目に相応しい大きな意義を我々後輩に残していただきました。

校長先生からは、彩雲館の管理運営規程の報告があり、その内容は実行委員長の式辞の中で「後輩の研鑽の場として提供する」と述べられている主旨に沿ったものです。とすれば、会員の使用規程もこの域か。事業報告は、沢山の会合で埋め尽くされていました。役員の方々には月二、三回とは別に募金活動も含めると、大変な労力を有難うございました。

新役員は、節目を越えたこの時に若返り人事をと、坂井指名委員長のお骨折りにより、広瀬恒行新会長のもとで発足いたしました。事業計画と予算案の審議二題が慎重な討議の上に通過。最後に、会則の改訂では会則第十二条の入会金を三千円から五千円に値上げする案を可決いたしました。

今年は、この春の卒業生(高四四回)の参加があり、華を添えてくれました。

総会のあと、会場を寿苑に移して、歓送迎会を開きました。進学の状況や部活動の活躍を聞き、和やかな歓談の中、盛会裡に終了しました。(宮川　治)

真新しい彩雲館での総会風景

いつも楽しい長男会

高七回　佐藤　正志

私達は関高校の一年生から三年生まで同じクラスで、先生(古田之彦氏、定年退職)も、三年間同じでした。

卒業と同時に会を作り長男がほとんどでしたので「長男会」と名前を付けました。結成以来今年で三十八年間、だいたい二カ月に一回の割合で会を開いております。現在会員は十二名ですが、幹事順番制で、それぞれがアイディアを凝らして楽しい会になるよう工夫しています。

七年程前からは、奥さん同伴で集まっています。先生にも一年に一度は参加していただき、学生時代の思い出話に花を咲かせています。二年後には結成四十年になりますので、四十周年記念行事として盛大に海外旅行(ハワイ、アメリカ)を夫婦同伴で、先生にも参加していただく計画をしています。

いつも長男会は、ほとんど全員参加です。メンバーみんな、楽しみに長男会の開催を待っています。今回は七月五日に行いました。遠慮する人もなく、気心の知れた者同志楽しくやっています。私の一番愛している会です。

ピラミッドの石を積むように思い出を重ねて

高三八回　山路　康代

関高校文C三年七組から巣立って今年で七年目を迎える。こうして数字にしてみて初めて七年の長さを感じた。それもそのはず、私たちは、三の七のメンバー三十人以上の出席で毎年同窓会を行っていて気持ちは変わらない、高校時代のままだからである。

「おお元気そうやな。がんばっとるか。」と肩をたたく樺山先生のやさしく下がった目尻や、「元気、元気。先生は?」などと答える明るい仲間の笑顔、そこには、七年前と変わらない先生と私たちがいるのである。夜おそくまでかかって教室一杯の大ピラミッドを建てたクラス。その夜食のそうめんで私たちは結ばれたのかもしれない。樺山先生のお宅がお寺ということもあって、お正月にはともに年を送り、新年を迎える鐘をつく。こうしてどこからともなく私たちは先生のもとに集まり、長机を並べて笑い合い語り合ってきた。奥様が、たくさんのおにぎりを作ってもてなして下さるのも常だ。私にとってこの仲間の笑顔と先生のあったかい微笑みは宝物であり誇りである。一つ一つピラミッドの石を積んだように、一年一年今までもそしてこれからも思い出を積んでいくのだと、三の七はそんな仲間だと私は信じている。今年もまた冬がやってくる。大好きな仲間に会い高校生に戻れるその日が待ち遠しい。七段目に積み上げるのは、どんな思い出だろうか。楽しみにしながら、私も教師として私の子どもたちが、こんな仲間を作り支えあっていけることを願って、クラス作りに励んでいる毎日である。

通常会費納入のお願い

今年度は総会年度にあたりますので、皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、二年に一回の通常会費二千円を同封の払込用紙にて今年中にご納入いただきますようお願い申し上げます。

昭和六十三年の総会において決定したことで、〝桜ケ丘だより〟の発行や、後輩達の部活動の援助、支部活動の援助、また、学校の教育環境の整備等を進めるためです。

前回の平成二年度は、創立七十周年記念事業への募金と重なったため、会費の納入をお願い致しませんでしたが、関高同窓会の発展と母校のために是非ご協力をお願いしたいと思います。

第一回は四千二百余名の方々にご納入いただきましたが、残念ながら納入率は約二十八%でありました。今回はこれを下回らないように目標を定めておりますので、一人でも多くの諸兄姉のご理解とご協力を我等が母校のために心からお願い申し上げます。

なお、納入される際は必ず卒業回数を入れていただくようお願いします。

平成四年度 同窓職員異動

〔転入〕
教諭(体)　河合　武久
加茂農林高校より

〔転出〕
教諭(理)　中村　晴己
中濃高校へ

おくやみ

小林　茂元校長
平成四年六月御逝去
享年六十九歳

天池富士枝元同窓会長
平成四年六月御逝去
享年八十二歳

ご冥福をお祈りします。

編集後記

創立七十周年も無事終わり、今さらながらお世話をして下さった方々のご苦労を思わないわけにはまいりません。夢は、はや〝百周年〟へと拡がっております。

「桜ケ丘だより24号」をお届けします。今回の内容はいかがでしたでしょうか。会員の皆様にとって唯一の通信欄でもあり、充実した紙面作りにと編集委員一同ガンバッテおります。全国でご活躍の皆様方の熱いおたよりをいただきたいと思います。お手紙、FAXなどにてお寄せ下さい。